

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

篠原昭二. 運動器系愁訴に対する経筋を応用した皮内刺鍼の有効性に関する臨床的研究 明治鍼灸医学 2000; 26: 65-80. 医中誌 Web ID: 2001218258

1. 目的

運動器系愁訴 (動作時痛、動作時のつっぱり感・牽引感・引きつり感等) に対する経筋を用いた皮内刺鍼の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属鍼灸センターおよび明治鍼灸大学附属病院整形外科外来、京都、日本

4. 参加者

運動器系愁訴を有する患者 90 名 (各群平均年齢 61.4-63.9 歳)

5. 介入

Arm 1: 本経治療群 (30 名)。愁訴と関連する部位を通る経筋上の末梢栄穴に皮内鍼を刺入 (横刺 0.2-0.5mm) 後、絆創膏固定

Arm 2: シャム治療群 (30 名)。治療穴は本経治療群と同じであるが、刺入直前に皮内鍼を放棄し、絆創膏固定

Arm 3: 他経治療群 (30 名)。本経治療における経筋と隣接した経筋上の栄穴に皮内鍼を刺入 (横刺 0.2-0.5mm) 後、絆創膏固定

Arm3 の 2 名が脱落した。

6. 主なアウトカム評価項目

動作時の苦痛の VAS 値

7. 主な結果

VAS 値は、Arm 1 と Arm 2 において、治療前後で有意に改善した (それぞれ $P < 0.0001$, $P < 0.0287$)。Arm 3 では有意な変化はみられなかった。改善の程度は本経治療群で最も大きかった。また、Arm 1 では、Arm 2 ($P < 0.01$) および Arm 3 ($P < 0.001$) に比較して、有意に VAS 値の減少幅 (本文は『変動幅』と記載) が大きかった。

8. 結論

経筋を考慮した皮内鍼治療は、運動器系愁訴に対して有効である。

9. 鍼灸学的言及

『靈枢』経筋篇第十三に記述されている経筋は運動器系の機能を調整する固有の経絡系統であるとの記載がある。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

古典における記述の解析から、経筋が運動器系を調整するルートとしての意義があること示した上で、経筋を治療に応用することが運動器系愁訴の改善に寄与することが出来るかという作業仮説を、臨床研究をもって証明しようとした貴重な論文である。また、疾患を扱っているのではなく運動器系の愁訴に対する皮内鍼治療の本来の効果をみようとしている点も評価できる。改善すべき点があるとすれば、インフォームドコンセントの説明においてシャム鍼には触れていないこと、アウトカム評価項目が VAS のみであること、直後効果のみの評価であり、その後のフォローアップがされていないこと、およびマスキングの成功についての検討がなされていないことなどが挙げられる。経筋に関する研究のさらなる発展を期待する。

12. Abstractor

若山育郎 2011.9.9